

道路沿いの木の伐採など解体が進められている旧大館商高用地（大館市片山）



大館地区統合高校建設へ

解体工事進む

新校舎に7月中旬着手

旧大館商高
地 野球フェンスなど撤去

大館市片山の旧大館商業高校用地で、28年度開校予定の大館地区統合高校建設に向けた第1期解体工事が進められている。現在のグラウンドが新校舎の建設場所となっており、道路沿いの木を伐採しているほか、野球フェンスなどを撤去。6月以降は校舎の解体のほか、新校舎の建設工事が始まる見込み。

新校舎について準備を進める県教育庁総務課内にある施設整備室によると、第1期は運動部が利用していた屋内運動場なども解体。6月下旬をめぐって終了予定で、それまでに伐採した木の切り株などを除去し、更地にして校舎の建設に備える。

今後は6月中旬に第2期解体工事に切りかかる予定。統合校でも活用予定の実習棟を除く校舎棟を解体していく。7月中旬には新校舎の建設工事を始める見込み。管理棟の

A工区と特別教室棟のB工区に分けて、建設と並行して電気工事なども行われるという。

う。完工はA工区が27年10月末、B工区は同12月中旬になる予定。

同校敷地を管理する大館国際情報学院の許可を得て、練習会場として利用していた市内の野球チーム「大館リトルシニア」は、ことし3月中旬までで同会場での練習を終了。チームによると、19年から土日や小中学校の長期休業中に使用していた。工事開始に伴いグラウンドの利用ができなくなり、現在は大館樹海ドームと花園球場で練習をしているという。